

| | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|--|---|--|---|---|---|
| | ⑤ | | ④ | | ③ | | ② | | ① |
| | ふ | 同 | エ | | ア | | く | ヨ | イ |
| | く | じ | | | | | は | ー | |
| | ろ | 重 | | | | | な | ロ | |
| | | さ | | | | | れ | ッ | |
| | | の | | | | | た | パ | |
| | | 金 | | | | | 暑 | か | |
| | | ひ | | | | | い | ら | |
| | | と | | | | | 国 | 遠 | |

「かいせつ」

(1) スパイスは暑い国でしかとれず、ヨーロッパにはまだスパイスがなかったためです。――①線部のすぐあとに書いてあります。

(2) スパイスがある「外国」とは「ヨーロッパから遠くはなれた暑い国」のこと。ひとつ前のだん落らくに書いてあります。

(3) 「スパイスをほかの国に高く売ること」でお金をもうけようと王様は考えたのです。――③線部のすぐ前に書いてあります。

(4) 「それ」が指しているのは「王様の命れいでたくさんの方が集められ、スパイスを買うための大きな船が何せきも作られました。」という部分。

(5) 「当時、スパイスひとふくろは、同じ重さの金ひとふくろと交かんされていたそうです。」という部分から考えます。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | | | ① |
| イ | ア | エ | お | う | 人 | ウ |
| | | | 金 | な | か | |
| | | | を | と | ら | |
| | | | か | こ | 見 | |
| | | | け | ろ | え | |
| | | | る | に | な | |
| | | | こ | ま | い | |
| | | | と | で | よ | |

「かいせつ」

(1) 東西でおしゃれの仕方がちがうため、かつこうを見ればすぐに東西どちらに住む人かがわかったのです。それは第二だん落^だと第三だん落^{らく}にくわしく書いてあります。

(2) 本文の「東の方では、く考えられていたのです。」という部分に書かれています。

(3) —③線部の前の部分に書かれています。

(4) この文章は東と西のおしゃれのちがいについて書かれているので、そこから考えます。

(5) 筆者は、今でも東西で人気のある服はちがうという話を聞いて、昔の東西での服のちがいが、今でもものこっていると感じたのです。それは—⑤線部のすぐ前に書いてあります。

| | | | | |
|---|---|----|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| イ | イ | 王様 | ア | エ |
| | | き族 | | |

「かいせつ」

(1) スパイスは暑い国でしかとれず、ヨーロッパにはスパイスがなかったため、しおしか使っていなかったのです。―①線部の少し前に書いてあります。

(2) 「あるヨーロッパ人がぐ持ち帰ったのです。」という部分に書かれています。

(3) スパイスをほしがった人は、肉を食べることが多かった「王様」や「き族」です。

(4) 王様はスパイスを買うために、人を集めたり大きな船を何せきも作らせたりのです。―④線部のすぐあとに書いてあります。

(5) 「のこりの船や人は、みんなとちゅうであらしにあつてしずんだり、病気でなくなってしまうたりした」という部分から考えます。



| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | | ③ | ② | | ① | |
| イ | で | と | お | ア | 味 | 黒 | ウ |
| | あ | 相 | し | | な | や | |
| | る | 手 | ゃ | | 色 | 茶 | |
| | | に | れ | | の | 色 | |
| | | し | を | | 着 | な | |
| | | つ | し | | 物 | ど | |
| | | れ | な | | | の | |
| | | い | い | | | 地 | |

と考えられていた

「かいせつ」

(1) 「見せびらかす」とは、じまんしながら見せつけるという意味です。

(2) ②線部の前の文からさがします。

(3) ③線部のだん落は東の女の人のことが書いてあります。かざりたてるよりそのままの美しさがいいとされた東の女の人は、ほとんどけししょうをしなかったのです。

(4) 西の女の人が入前でせいっぱいのおしゃれをするのは、おしゃれをしないと「相手にしつれいである」と思われていたからです。④線部のすぐ前に書いてあります。

(5) 本文に「東では黒や茶色で『かっこいい』感じの服が売れ、西の方ではあわい色の『かわいい』服の方が人気がある」と書いてあります。前の方のだん落に書いてあることとあわせると、東では地味な色でかっこいい服、西ではあわい色でかわいい服が人気があることとなります。



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| イ | ウ | イ | ア | ウ |

「かいせつ」

(1) 当時は「かけ」になる理由がわかっていなかったの
で、人々からおそれられたのです。―①線部のすぐ前
に書いてあります。

(2) ―②線部の前の文に書かれています。

(3) 茶色のお米は、白米と同じしゅるいだが、よぶんな
部分を取りさっていないもの。―③線部のすぐあとに
書かれています。

(4) 取りさってしまうよぶんな部分には、「かけ」にな
らないためのビタミンB1が多くふくまれていたのです。

(5) ビタミンB1は、体をきちんと動かすためにひつよ
うなビタミン。これが足りなくなつた人が「かけ」
になり、体が動かせなくなつたのです。―⑤線部より
後ろに書いてあります。



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| ア | ウ | エ | ア | イ |

「かいせつ」

(1) ①線部のすぐあとに書いてあるように、「ふしぎなところ」とは、都会にいる人だけになり、いなかへ帰ればすぐなおってしまうところでは、

(2) 梅太郎が気づいた「あること」とは、都会といなかでは食べている米がちがうこと。都会では白米を食べ、いなかでは茶色い米を食べているのです。②線部のあとに書いてあります。

(3) 梅太郎は、「かけ」になる人が白米を食べている都会の人だということに気づいたので、白米がすてしまっている部分に「かけ」をなおすせい分があるので、はと考えたのです。③線部のすぐ前に書いてあります。

(4) 味や色をよくするため、茶色い米からよぶんな部分を取りさったのが白米で、そのよぶんな部分にビタミンB1が多くふくまれているので、白米にはビタミンB1が少ないのです。第三だん落らくにそのせつ明が書いてあります。

(5) 茶色い米にくらべてビタミンB1が少ない白米を食べ続けると、体の中のビタミンB1もへってしまうのです。このことは第三だん落にせつ明が書いてあります。